

メシアニック・ニュース新聞

編集・発行
シオンとの架け橋
印刷・発送
(株)アイネックス

イエスを信じるユダヤ人たち

世界各地で急増中

「ユダヤ人はイエスを信じない」という過去の常識が通用しなくなっている。全世界で二十万人、イスラエルだけで一万人以上のユダヤ人がイエスを信じているからだ。「メシアニック・ジュー」と呼ばれている彼らの動きは、世界各地で同時多発的に始まり、今では大きな潮流となっている。この動きの最前線となっているのは、約束の地イスラエルだ。



シラム師



ツカヒラ師

一世紀の教会を復興へ

エルサレムの目抜き通りに近い閑静な住宅街、ナルキス通り



にある「ネティブヤ」（写真左上）は、エルサレムでも初期に設立されたユダヤ人集会の一つ。毎週土曜日には百人ほどのユダヤ人がイエスを礼拝するために集まる。言語はヘブライ語で、イエスの名前も英語名のジーザスではなく、ヘブライ語名のイエシュアを使う。

礼拝は、イエスの血による贖いが強調されるが、ユダヤ教正統派の人が参加してもさほど違和感の無い簡素なもの。これは「イエスや使徒たちが教えたい教会を復興する」というビジョンによるものだ。

同時に、エルサレムの全住民

が「祝福あれ。主の名によって来られる方に」（マタイ 23・39）と宣言することもビジョンに掲げており、指導者のヨセフ・シラム師は「私の目標は、ここに自分の教会を建てることではない」と述べる。

ネティブヤは、中波ラジオを使った宣教放送「コル・ハイエシュア」の制作（放送はTWR）など、迫害覚悟の積極的な宣教を行っている。

北部で進む宣教

地中海沿岸のハイファ近郊で宣教を始めたエイタン・シニコフ師はかつて、会堂を焼き討ちにされる被害に遭った。エルサレムと違い、宗教的な色彩が薄く、新約聖書への抵抗感も少ない土地だが、ここでも迫害は避けられない。

それでも大胆に積極的な宣教活動を続けてきたシニコフ師の集会「恵みの天幕」は、イエスや弟子たちが宣教を行ったガリラヤやナザレなどにも集会を設立しており、現在ではイスラエルで最大級の集会ネットワークへと成長している。

カルメル山上で

聖書の時代にエリヤがバアルの預言者と対決したカルメル

山上、そこに現在あるカルメル・アセンブリーはイスラエルのユダヤ人集会の中でも最も美しいと言われる会堂を持っている。ネティブヤなどの簡素な礼拝とは違い、音楽も派手でユダヤ的な要素は少なく、日本の聖霊派の賛美礼拝とほとんど変わらない雰囲気だ。

この集会を指導する日系人のピーター・ツカヒラ師は「福音はユダヤ人とアラブ人に和解をもたらす力」と語る。現にこの集会では、アラブ人クリスチャンと、メシアニック・ジューが共に神を礼拝している。福音がイスラエルを変える日は、もうそこまで来ている――。



ユダヤ教からの迫害に苦しむ



メシアニック・ジューに対する地元ユダヤ教の反発は強い。「ユダヤ人を騙して改宗させるキリスト教の新手の策略だ」と受け止められるからだ。このため、メシアニック・ジューの宣教活動への妨害を専門に行う「反宣教団体」というものも登場し、組織的な迫害も行われている。

彼らのウェブサイトには「メシアニックの集会にスパイを送り込んだ。新しい会堂を借りると言う情報を得たので、即座に家主に事情を説明して契約を阻止した」などの「実績」が誇らしげに掲載されている。

メシアニック・ジュー家庭の子アミ君（写真）は昨年の春、プレゼントに偽装した爆弾を開けたところ瀕死の重傷を負った。奇跡的に命はとりとめたが、現在もまだ後遺症に苦しんでいる。

第二次世界大戦におけるユダヤ人大虐殺として悪名高いホロコーストの加害者が、じつは「クリスチャン」だったというショッキングな事実をご存知だろうか。

これは教父たちの時代に早くもキリスト教で確立した「ユダヤ人は神に捨てられた」、「ユダヤ人は神殺し」という教えを神学的根拠に、後の中世において激しいユダヤ人迫害が行われた。かの有名な「十字軍」はキリスト教徒とイスラム教徒の戦いだと思われがちだが、実際には聖地に行く途上でも、聖地でも、莫大な数のユダヤ人が虐殺されたのだ。

また、スペインなどのキリスト教国では、ユダヤ人たちは改宗するか、国を出て行くか、死刑になるか、の三者択一を迫られた。改宗したユダヤ人たちは、少しでもユダヤ的な風習を守っただけで「異端審問」にかけられ、残虐な方法で殺害された。

ユダヤ人を迫害したのは「クリスチャン」だった ～2000年にわたる痛みと憎しみの歴史～

宗教改革者ルターは、最初には親ユダヤだったが後に激的な反ユダヤとなり、ユダヤ人を虐殺すべきだと力を込めて教えた。ホロコーストの首謀者のユリウス・シュトレイヒャーは、戦争犯罪の法廷で「マルチン・ルター博士こそ私の代わりにこの座に座らせられていくべきだ」と語ったという。

中世の教会では「ユダヤ人は神に捨てられ、決して赦されることが無く、永久に地上を放浪する」というのが定番の教えだった。彼らは「選びの民」としての地位は、イスラエル民族から取り上げられ、教会に引き継がれた」と主張したのである。

確かに、ユダヤ人が神の怒りを受けて世界中に離散することは旧約聖書の預言通りだ。だが旧約聖書は、ユダヤ人たちが再び神が顧みられる時代が来るとも預言している。この点に注目した教えが教会で説かれるようになったのは十九世紀のことだ。そして実際、ユダヤ人たちは約束の地に帰ったのである。

再びユダヤのルーツへ

エイタン・シンコフ師が語るイエスとの出会い

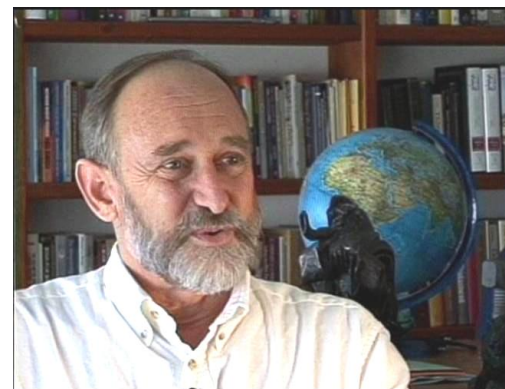
一九六〇年代、私はアメリカの他の若者と同じく、親の世代の価値観に不満を感じていました。大学を中退し、政治運動に関わり、警察にも捕まりました。麻薬やロックバンド

にも関わりました。

現在の妻に出会った私は荒野での生活を始め、そこで自然と共に生きる共同体が始まり、仲間が集まりました。しかし、ある時突然、友人が侵入者に殺されました。人生とは何なのかと思いました。いたい神はいるのか、疑問が心を苦しめました。

私は、仏教やヒンズー教など多くの宗教を試しました。インディアン宗教も試し、聖書以外は全て試したのです。私はユダヤ人でしたが、家は無神論で、ユダヤ教もキリスト教も知りませんでした。

でも、私が求めるうちに、人生最大の奇跡が起きました。神が私に啓示を与えて下さったのです。イエスが十字架で私のために死なれた、と。彼の目には無限の愛が満ちていました。私の欠点と罪をご自分の身に負って苦しんでおられました。一九七二年十月、私は彼の前にひざまずき、私の人生を明け渡したのです。しばらくして聖書を読むと、過越祭の記事がありました。「彼らはユダヤ人じゃないか」と私は気づきました。ユダヤ人としてのルーツに、私は再びつながれたのです。



増加を続ける メシアニック・ジュー人口 4割はロシア移民

イスラエルのメシアニック・ジュー運動を研究する専門機関「カスパリセンター」(エルサレム)では、1999年に非常に詳細な調査を行い、メシアニック・ジューの数を約5千人だと想定した。それから10年を経た現在、集会の数も人数も、大幅に増加しているという。

現地責任者で、メシアニック・ジューのアレックス・ゴールドバーグ氏は、「現在は正確な統計はありません」としながらも、「一部の人々は1万5千人と言いますが、私の個人的な直感では、8千から1万人だと思います。その4割はロシア移民です。ロシア移民が共産主義で受けて来た訓練は宣教に役立っています」と語っている。



ユダヤ人の兄弟を迎える クリスチャン



放蕩息子のたとえ—
兄と弟はどちらがユダヤ人？

多くのユダヤ人に聖霊が注がれるという、予想外の事態を神学的に説明するのは難しい。だから、メシアニック運動に関する神学は、まだ発展途上だ。神学論から入ると、さっぱり理解できないのがメシアニック運動なのである。

だが、現実的にユダヤ人の多くが約束の地に帰り、イエスを信じ始めているという事実は明白だ。そこで、この現実に対応して、クリスチャンの中でも様々な動きが出ている。

クリスチャン・シオニズム

民族が国を失って離散し、その後何百年を経て、再び故郷に帰ったという例は、ユダヤ民族だけ。それは三千年も前から何度も聖書で予告されてきた通りである。預言の中には、

ユダヤ人が不信仰のまま東の地に帰るとする預言(エゼキエル36など)もあり、現代イスラエルの不信仰と聖書の預言は矛盾しない。

だから、クリスチャンとしてユダヤ人を助けることを目指して、多くの団体が誕生した。

ブリッジス・フォー・ピースとエベネゼル緊急基金は、日本にも支部があり、積極的に活動している。二〇〇七年に東京で開催された「エルサレム・サミット・アジア」も、クリスチャン・シオニズムの流れだ。

こつした運動の結果、クリスチャンとユダヤ人の間の敵意は薄らいで来ている。

LCJE

一九八〇年にタイで開催されたローザンヌ世界伝道会議

で設置された、ユダヤ人伝道の委員会がLCJE(ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会)である。ユダヤ人伝道は、終末論などに関連して様々な議論があるが、この委員会はそうした議論の場として重要な役割を果たしてきた。

日本にもLCJEの支部があり、定例祈禱会や月刊の機関誌発行などの情報発信活動、また、ユダヤ人宣教団体への献金などを行っている。

親メシアニック団体

ユダヤ民族はイエスを拒否してきたが、クリスチャンたちが持つていない「パズルのピース」を数多く持っている。

イエスも使徒たちも祝っていた聖書の例祭の霊的意義もその一つだ。異邦人クリスチャンは、ユダヤ人たちが受け継いでいる霊的遺産を学ぶことで、より深く聖書を知ることができると。しかし、教会はクリスマスなどを祝うのを止め、ユダヤの祭りを祝うべきだと主張は、メシアニック・シユールの間でも、ほとんど支持されていない。

メシアニック支援団体である「シオン喜び」や「シオンとの架け橋」では、イスラエルに関する学び、メシアニック・シユール

のための祈りと献金のほか、メシアニック・シユールとの交流活動などを行っている。

放蕩息子の兄

二千年前、異邦人に聖霊が注がれるという新しい事態を受け、異邦人信徒がユダヤ人になるべきかどうか、弟子たちは議論した。そして、異邦人をそのまま受け入れることが決まった(使徒15章)。

現在クリスチャンたちは、逆にユダヤ人信徒が「ユダヤ人をやめて異邦人になるべきかどうかを議論している。

最初は異邦人信徒が放蕩息子の立場だったが、今やユダヤ人信徒が放蕩息子の立場に立たされている。「長く神から離れていた弟である私たちを、兄である皆さんは温かく迎えて下さい」とエイタン・シンコフ師は言う。

異邦人クリスチャンの応答を、父は待つておられる。

イスラエルへの祈り



現代イスラエル国家が建国されるとは、ほとんど誰も考えなかった

昭和初期に、イスラエルのために祈れと教えたのが中田重治師だ。彼の弟子たちの一部は、今もイスラエル回復の祈りを続けている。基督聖協団、基督兄弟団、そして「シオンとの架け橋」の活動を支える「聖書研究会」もこの流れをくむ。

この歴史を紹介したビデオ「イスラエルへの祈り」時を越えて(企画・制作:シオンとの架け橋/制作協力:ハーベスト企画)は日本で二千本以上も配布。英語/ヘブライ語版も制作され、イスラエルと全世界で感動を呼んだ。

ビデオは無料で配布されており、自由献金制。申込はシオンとの架け橋まで。

10月中旬発売予定 新刊『隠された宝』

イエスと使徒たちが用いたユダヤの聖書解釈法

メシアニック神学者として知られるヨセフ・シユラム師の著書が日本語で初出版。全てのクリスチャンにお勧め致します。

発行:イーグレープ
TEL:03-3261-2141

イエスと使徒たちが用いたユダヤの聖書解釈法

Hidden Treasures
隠された宝

著書:ヨセフ・シユラム
監訳:石井 直二



イスラエルより三師が同時来日

大阪・東京で集会を開催

今年二〇〇九年十月に、イスラエルから三人の牧師を迎えた聖会「アジア・メシアンニック・フォーラム 2009」が大阪と東京で開催される。主催はメシアンニック支援などの活動を行う超教派ミニストリー「シオンとの架け橋」。

日本を代表する指導者が 応答メッセージ

このフォーラムの画期的なところは、立場の異なる三師が同時に講壇に立つため、一度に運動の全容を把握できることだ。また、応答メッセージも、中川健一師、奥山実師ら日本有数の指導者が語る予定となっており、ユダヤ人の信仰運動に対する異邦人からの応答という意味でも興味深い。

イスラエル・ユダヤ人宣教に重荷をもつ諸団体、諸教会など八十以上も、開催協力として名を連ねる。異邦人教会がこぞユダヤ人ピリバーを歓迎する意義は大きい。

また、このフォーラムには、韓国とタイなどから、イスラエルをビジョンにした活動を行う団体の代表も参加する。

まさに、人の力ではなく、聖霊の導きによって実現した集会だと言ふべきだろう。

今回のフォーラムは、広く一般のクリスチャンに、この分野に関する基本理解を伝えることを目標としており、難解な話題は避けて、ユダヤ人の救霊、メシアンニック・ジュー運動の意味、福音宣教など、基本的な話題に焦点を絞る予定だ。

ハーベストTVでも紹介
このフォーラムのビジョンが、十月の第二週（十／十一日放映）の番組で紹介される。メシアンニック・ジューの二人の証しも上映される予定だ。

未信者を含む一般向けのTV番組で、このフォーラムが取り上げられることになったのは、ユダヤ人の救いが異邦人にも大きな意味を持つからだ。ユダヤ人が受けた契約が取り消されないことは、私たちが受けた「新しい契約」が取り消され

メシアンニック用語

メシアンニック・ジュー Messianic Jew
ユダヤ人の民族性を保ったままでイエスをメシアと信じる人々。広義では、民族性を保つか否かに関わらず、イエスをメシアと信じるユダヤ人を指す場合もある。

イエシュア Yeshua

イエスの本来のヘブライ語名。「主は救い」の意。

コングリーゲーション congregation

メシアンニック・ジューの教会こと。会衆・集会とも訳される。教会と違って建物は意味しない。

メシアの体 The Body of Messiah

異邦人とメシアンニック・ジューを含むキリストの体（公同の教会）を指す言葉としてメシアンニック・ジューがよく使う表現。

信者／ピリバー believer

メシアンニック・ジューと異邦人クリスチャンの両方を指す言葉。

今回のフォーラムが日本のリバイバルの突破口を開くものとなるよう、祈りたい。

聖書は預言する。

「メシアンニック新聞」は、アジア・メシアンニック・フォーラムのために特別制作したもので、定期刊行物ではありません。

アジア・メシアンニック・フォーラム 2009

イスラエルから3人の牧師が同時に来日!

大阪 2009/10/19(日) 20(日)
会場:大阪コロナホテル
(JR・新幹線大阪駅東口徒歩3分/地下鉄新大阪駅徒歩8分)

東京 2009/10/22(木) 23(金)
会場:ウェスレアン・ホーリネス淀橋教会
(JR大久保駅徒歩1分/ JR新大久保駅徒歩3分)

※宿泊が必要な方は、近隣のホテルを各自でご予約ください。
いずれの集会も申込不要、入場無料(席上献金あり)

◇プログラム 開場:午前9:30

時間	1日目	2日目
午前 10:00~12:00	集会1	集会4
午後 1:30~5:00	集会2	集会5
午後 7:00~9:00	集会3	集会6

※ピーター・ツカヒラ師は、東京では集会1,2のみの参加です。

1日目テーマ「イスラエルで起こる奇跡のリバイバル」
2日目テーマ「世界を変えるシオンからのメッセージ」
イスラエルからの講師によるメッセージの他、日本の牧師らによる解説や応答メッセージ、パネル・ディスカッションなどがあります。

日本プロテスタント宣教150周年記念協賛
1859年に本土で宣教が始まる10年以上も前に、沖縄で宣教活動を行なったベッテルハイムは、メシアンニック・ジューでした。

開催協力: ネティブヤ/恵みの天幕/カルメル・アセンブリー(以上イスラエルの団体)/LCJ日本支部/シオンの喜び/ヤッド・ハシュモナ友の会・ジャパン/エペネゼル緊急基金日本事務局/ネティブヤ日本支部/ハーベスト・タイム・ミニストリーズ/宣教師訓練センター(MTC)/基督聖協団/他 計84団体(2009年9月7日現在 順不同 開催協力団体を募集中です)

主催 シオンとの架け橋 TEL/FAX:078-851-0411 http://www.am-forum.jp

発行:シオンとの架け橋
(神戸事務所)
東灘区住吉東町 2-6-34-301
TEL/FAX:078-851-0411
http://www.zion-jpn.or.jp/
シオンとの架け橋は、1999年に設立され、単立教会の「聖書研究会」により運営されているミニストリーです。「メシアンニック新聞」は、アジア・メシアンニック・フォーラムのために特別制作したもので、定期刊行物ではありません。